

会議録(速報版)は、暫定的なものであるため、正式な会議録とは一部異なり、今後訂正される場合があります。

正式な会議録は、調製後「会議録の検索と閲覧」に登載されます。

○楠本千秋君 皆さん、こんにちは。天草市・郡選出の自民党・楠本千秋、議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。今回で10回目であります。そして、何とトリを務めさせていただきます。本日まで12名の先輩議員が演壇に立たれ、立派な質問されました。それに負けないように、締めくくりをやりたいと思いますので、よろしく御清聴お願いします。(発言する者あり)ありがとうございます。

本日は3月11日、3.11、朝一番で黙禱をさせていただきましたけれども、黙禱の間、あの津波の映像が浮かんできました。そして、その後、熊本でも熊本地震、川の氾濫、大変な状況、それを全庁挙げて取り組んでいただいていますので、これからもしっかり一日も早く復興をお願いしたいと思います。

1年前の3月7日、熊本県知事選が告示され、17日間の選挙戦を、木村知事は「くまもと新時代、共に未来へ」「県民への10の約束」を掲げられ、見事当選されました。そして、熊本を日本一のふるさとにするため、今後の人生をかけるという覚悟を持って、4月16日に熊本県知事に就任されました。間もなく1年がたとうとしております。

知事は、県民の弱き声、小さき声、そうした声を聞くため、現場主義を实践され、お出かけ知事室を開催、知事自ら県内市町村を訪ね、県民の皆様と直接意見交換され、県政に対する様々な思いを受け止められました。そして、問題解決のため、多くの推進本部、地下水保全、渋滞解消、こどもまんなか熊本、熊本で働こう、外国人人材との共生等など、いち早く立ち上げられました。

また「世界に広がる」「人を育てる」「共に創る」の3つを県政の最重要のキーワードに掲げられ、県民が主人公の県政の実現に向かって頑張っていただいております。

木村知事、この1年、大変お疲れさまです。

知事は、私の大好きな天草と、お話しされることを何度かお聞きしています。今回の質問は、その知事が大好きな天草振興について質問をさせていただきます。

本年1月14日に、知事の音頭で、天草で地域未来創造会議が開催されました。2市1町の首長と天草選出の4名の県議が参加しました。木村知事と市長、町長の間で活発な意見交換があり、大変有意義な会議だったと思います。

意見交換の中では、2地域居住なども取り入れた移住定住や保育園留学など、都市圏との交流促進についての意見が出たほか、天草市の取組においては、定住率が高い報告や島根県海士町の島留学などを参考に、地元にしし学科をつくり、世界中から人を呼びたいという提案もありました。

これらの食を生かした取組は、知事が、くまもと新時代、共に未来へ、県民への10の約束の中に、食のみやこ熊本の創造を上げられております。ぜひとも積極的に進めるべきだと思います。

高校の魅力化の推進、人材の育成、そういう観点からも、提案のあったすし学科は大変面白く夢のあるテーマだと感じました。

すしのことを考えたときに、天草は物すごく高いポテンシャルを持っていると思います。ミシュランに掲載された店が何軒もあり、豊かな漁場があり、すしの聖地に名のりを上げて問題はないと考えます。

天草の魚はブランド化し、豊洲をはじめ様々な市場において高値で取引されていると聞きます。天草地域には多くの資源があるが、その中で、新鮮で質の高い農林畜水産物は、特に自慢ができる資源の一つであります。

今回の議論を踏まえ、木村知事におかれては、今後の天草地域の振興について、特に、中でも食を生かした取組について、どのような方向で取り組まれるのかをお尋ねします。

〔知事木村敬君登壇〕

○知事(木村敬君) 楠本議員から御質問いただきました。

議員に御紹介いただきました1月14日の天草地域での地域未来創造会議は、首長の皆様から、食を生かした地域振興、高校の魅力化を含めた人材の育成、2地域居住など、様々なライフスタイルを生かした交流の促進などなど、前向きなアイデアが様々たくさん出まして、将来につながる有意義な意見交換をさせていただきました。

今後、これらのアイデアの具体実現化に向けて、会議で議論した課題や取組を掘り下げて、天草の各市町と検討してまいりたいと思っております。

議員御質問の食を生かした取組は、私が最も力を入れたい分野の一つでございます。昨年10月、食のみやこ推進局を新設しまして、農林水産部と商工労働部の2つの部が連携しながら、部の垣根を越えるからこそできる取組を今全力で進めているところでございます。

現在、県では、農林畜水産物の高付加価値化や豊かな食文化を生かした観光誘客などに取り組むため、食のみやこ熊本県の創造に向けたビジョン、これを策定しているところでございます。2月に開催した有識者会議では、ブランディングの必要性ですとか、料理人の確保など貴重な御意見をいただきまして、6月頃までにこのビジョンを取りまとめる予定でございます。

天草地域は、もう皆さん御承知のとおり、この豊かな自然が育んだマダイやクルマエビなどの海の幸をはじめ、天草晩柑、天草大王など、魅力ある農林畜水産物が大変豊富で、これらを生かしたグルメも数多くあり、非常に高い食のポテンシャルのある地域だと認識しております。

これまで県では、東京や大阪にある有名ホテルやレストランのシェフを産地視察にお招きして、天草地域の食材を使用した熊本フェアの開催につなげるなど、認知度向上や販路拡大につながる支援を行ってまいりました。

また、天草地域内の商工業者や観光業者の皆様方と連携しながら、魅力ある食材を生かした新商品やメニューを開発するなどの新たな取組を通じて、食の発信と交流人口の拡大等を図ってきております。

高校の魅力化に当たっても、食は積極的に活用したい地域資源の一つでございます。議員御紹介とおり、地元からのすし学科の設置といった御提案もございましたが、県教育委員会においては、人材育成の観点から、地域一体となって様々な可能性について検討していただきたいと考えております。よろし

くお願いいたします。

県といたしましては、各市町や地元の皆さんとともに……(発言する者あり)いや、大事ですよ、この点。食のさらなる高付加価値化や未来を担う人材の確保、育成などの取組、そして、天草ならではの特色や強みを生かして地域振興に努めてまいります。

以上でございます。

〔楠本千秋君登壇〕

○楠本千秋君 知事に御答弁いただきました。

知事は、豊かな食文化を生かした高付加価値で稼げる農林畜水産業を実現のため、食のみやこ熊本の創造を掲げられ、推進局を発足させられました。

今議会に、世界に羽ばたく志ある人材を育成するため、地域と力を合わせた県立高校の魅力化を進めるコーディネーターの配置や、地元企業と連携した特色ある学びの実現に向けた学習環境を整備する予算が計上されております。

天草出身のすし職人さんで、ニューヨークの一等地で、すし店、Shion 69を開店されている人がおいでになります。その人は、天草の小学校、中学校、高校を卒業され、釣りが大好きで、高校時代は近くの魚屋でバイトをされたそうです。卒業後に有名和食店に就職、魚の見方や締め方を心得ていたことで、その人は異例の速さで出世されています。20代の若さで、ニューヨークにShion 69という店を開店されています。開店3か月で、ミシュランの1つ星を獲得されたと、ニューヨーク・タイムズ誌にも紹介されております。紹介の中で、最初の刺身から最後の握りに至るまで、厨房に入ってくる魚介類の化学的性質や筋肉の構造などを熟知しているようだとあります。そして、7月はウニの旬の時期だ、ふるさとの天草から2種類のウニが届いており、オレンジ色の大きなムラサキウニは後味が口に広がる、このウニは手に入れるのがとても難しい、私はそこの出身なので手に入れるんですと彼は言ったとあります。天草の土地が、その人のすし職人としての大事な部分を育てたと考えられ、今もなお天草から魚を仕入れられているほどです。

世界に羽ばたく志ある人材を育成するため、地域と力を合わせ、県立高校の魅力化に取り組んでいただきますようお願いしまして、次の天草の観光、クルーズ船についてお話をさせていただきます。

天草の大きな課題は、観光振興であると思います。宝の島天草の持つポテンシャル、知事に答弁いただきました食も、大きな大きな財産ですが、イルカウォッチングや下田温泉、天草西海岸の夕日、崎津天守堂を含む崎津集落など、天草に数多くある観光スポットを大いに生かした取組も観光振興には必要ではないでしょうか。

中でも、美しい自然とキリシタンの隠れ家という文化的背景を持つ崎津集落は、2018年に、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産として、世界遺産に登録されました。

集落には、キリスト教の教会と日本の伝統の神社が混在するなど、独特の雰囲気を持った空間が広がり、日本人のみならず、海外の方にも大変魅力的な観光スポットです。実際に、世界遺産に登録された翌年は、崎津集落を訪れる観光客の数が倍増したと伺っております。

そして、令和4年12月の一般質問で、蒲島知事から、フランス、ポナン社の豪華クルーズ船が天草市の崎津港と上天草の前島港に寄港するといううれしい発表をされ、大満足してもらえるよう、受入れに向けた準備をしていきたいと力強く答えられておりました。

知事のお話どおり、昨年4月23日、5月1日、5月6日の3回、天草市の崎津港に寄港が実現しました。地元では大変な盛り上がりを見せ、寄港当日、集落は歓迎ムード一色に包まれ、おいでいただいた多くの観光客の方々をおもてなしされたと伺っております。

そこで、県と天草市では、どのような体制で対応されたのか、また、おいでいただいたお客様の状況や反応について、観光文化部長にお尋ねします。

それから、本年も、4月の16日と20日に寄港が予定されると伺いました。昨年の経験を生かした県と天草市の取組の意気込みを併せてお聞かせください。

〔観光文化部長倉光麻里子さん登壇〕

○観光文化部長(倉光麻里子さん) 議員御紹介のとおり、昨年4月から5月にかけて、フランスの富裕層向けクルーズ船「ル・ジャック・カルティエ」の初寄港が実現しました。これは「九州の大自然・歴史と信仰の島々」というテーマのツアーで、乗船客は各回約150名、国籍別には、フランス、日本、オーストラリア、ベルギーといった国の方々を中心としたものでした。

県では、この天草地域における初の国際クルーズ船寄港に合わせ、天草市、上天草市、観光協会、漁協等と一体となって、様々なおもてなしを実施しました。

まず、午前中の崎津港への寄港に合わせ、港で大漁旗を掲げ、中学生を含む地元の方々とともに歓迎しました。また、ポナン社の協力の下、崎津教会をはじめ、崎津諏訪神社、寺院の普應軒を紹介する訪問記念帳を乗船客に提供し、崎津の魅力である異なる宗教が共存する集落内の散策を促しました。

加えて、通訳ガイドによる潜伏キリシタンの歴史案内や畳敷きの教会で地元の古楽器音楽家グループの演奏も披露したところ、崎津独自の景観や文化に感銘を受けられた様子で、さらには、散策中には軒先で地元住民との交流もあり、崎津ならではのおもてなしを大変楽しまれていました。

また、午後には、上天草市の前島港に移動し、晩柑やウエルカムドリンクによる地元女将会の歓迎を皮切りに、イルカウォッチングへの案内や舞踏団花童による天草四郎をテーマとした踊りなどを披露しました。

崎津港から前島港へ向かう船内では、崎津のすし職人による地元鮮魚を使ったすしの振る舞いや県産焼酎の飲み比べを行ったところ、行列をなすほど大好評でした。また、天草の鮮魚、和牛、天草大王などを使った料理の提供もあり、地元食材のPRにもつなげることができました。

天草観光のポテンシャルはもとより、今回の県、地域一体となったおもてなしに対するポナン社の評価は大変高く、本年4月16日、20日の崎津港への再寄港が実現しました。

県、天草市では、今回の寄港に合わせ、崎津をより知ってもらうウオークツアーの実施や、地元の方々と触れ合えるハイヤ踊りの披露、体験など、新たな企画の準備も進めています。

富裕層向けクルーズとして世界トップクラスのポナン社の動きは、他のクルーズ船社の関心事でもあ

り、天草寄港に関する問合せも増えています。

引き続き、ポナン社の寄港を通して培った知見や経験を生かし、天草へのクルーズ船誘致強化を図り、県、地域一体となって、天草地域のさらなる観光振興に取り組んでまいります。

〔楠本千秋君登壇〕

○楠本千秋君 観光文化部長に御答弁いただきました。

大漁旗での出迎えをされたと。崎津教会、神社、寺院を紹介する訪問記念帳の配布、異なる宗教が共存する集落の散策、これは、崎津集落の持つ崎津ならではの体験だと思います。船内では、すし職人によるすしの振る舞いや焼酎の飲み比べ、それに、天草の鮮魚、和牛、天草大王など、地元の食材の料理も提供されたそうで、天草を堪能されたことと思います。本年の再寄港には、ハイヤ踊りの披露も体験も含まれている、そういう企画があるとお聞きしました。

ポナン社は、世界のトップクラスです。天草寄港がうまくいけば、他のクルーズ船も可能性があると本当に思います。どうかしっかりした対応をよろしくお願いいたします。

それでは、次の国道389号下田南工区についてお尋ねをします。

天草管内の道路事情の一つとして、天草が熊本都市圏と県内主要圏域を90分で結ぶ、いわゆる90分構想の唯一の未達成地域であることが上げられますが、県におかれては、日夜頑張っていております。特に熊本天草幹線道路の取組では、一昨年の天草未来大橋の開通に続き、本渡道路Ⅱ期約2,800メートルの中心杭打ち工を昨年12月1日、木村知事、金子代議士、九州地方整備局長など多くの関係者を迎え、開催していただきました。

また、先月の2月24日には、大矢野トンネル925メートルの貫通式が執り行われ、一步一步前進していると思います。感謝を申し上げますとともに、道のりは遠くともしっかりと進めていただきますようお願いいたします。

天草管内の道路事情の2つ目が、国道389号下田南工区の道路改良事業が挙げられます。天草地域の生活基盤であるとともに、天草の観光の目玉であり、天草の宝であるイルカウォッチング、800年の歴史を持つ下田温泉、西海岸の夕日、世界文化遺産登録の天草の崎津集落、それにつながる国道389号下田南地区には小田床隧道、桑ノ木隧道と2か所の交通難所があり、大型バスは通れず、大変危険な状況であります。令和3年には、小田床隧道に代わる3号トンネル386メートルが完成し、一般道路への取付工事完了を受けて、令和6年7月20日に無事バイパス区間が開通をいたしました。

残るは、難所の桑ノ木隧道に代わる周辺関係の道路です。下田地区の生活道路であり、多くの観光客が訪れる通称天草西海岸サンセットライン、大変重要な道路、国道389号下田南工区道路工事の今後の見通しについて、土木部長にお尋ねをいたします。

〔土木部長宮島哲哉君登壇〕

○土木部長(宮島哲哉君) 国道389号は、天草地域の幹線道路網を形成し、地域の日常生活を支える道路であるとともに、多くの観光客が訪れる下田温泉、世界文化遺産の崎津集落などをつなぐ、観光振興においても重要な道路と認識しています。

下田南地域は、急峻な山や崖が海にせり出す変化に富んだ海岸線と天草灘が織りなす雄大で多彩な自然景観を有する一方、議員御指摘のとおり、その沿岸部を走る国道389号は、小田床隧道や桑ノ木隧道をはじめ、見通しが悪く、車両の擦れ違いが困難な区間が多くを占める交通の難所となっていました。

そのため、平成14年度から、4つのトンネルと2つの橋梁を含む約3.5キロメートルの道路改良に取り組んできました。

これまで、少しでも早く道路を安全に利用いただけるよう、工事の進捗に合わせて、段階的に供用区間を延ばし、昨年7月までに小田床隧道を迂回するバイパスを現道に取り付け、下田温泉方面から南へ約2.5キロメートルを供用したところです。

残る約1キロメートルについては、トンネルと2つの橋梁によるバイパス工事を進めており、まずは、観光バスをはじめとする大型車両の通り抜けを可能とするため、隘路となっている桑ノ木隧道を迂回する約800メートルの区間を令和9年までに供用したいと考えています。

引き続き、下田南工区の安全で快適な走行環境の実現と天草西海岸地域のさらなる魅力向上、ひいては天草地域の振興につながるよう、最終区間となる高架橋約200メートルを含む全線の早期完成に向けて、しっかりと整備を進めてまいります。

〔楠本千秋君登壇〕

○楠本千秋君 宮島土木部長に御答弁いただきました。

これまで大変な努力で取り組んでいただいております、感謝を申し上げます。

部長も認識していただいている下田南工区は、海岸線のすばらしい景色の一方で、見通しが悪く、車両の擦れ違いが困難な区間もあります。

天草地域のように半島地域における災害時の交通アクセス確保については、昨年1月1日の能登半島地震でも、その重要性が取り沙汰されております。

国道389号は、緊急輸送道路にも指定されている道路でありますので、天草地域の防災機能の強化のためにも、一日も早い全線開通に向け努力していただきたいと思います。

残る約1キロの桑ノ木隧道を迂回する800メートル区間にも、うれしい答弁をいただきました。令和9年頃の部分供用で、大型観光バスなどの通行が可能との御答弁いただきました。ありがとうございます。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

次の御所浦の振興についてお尋ねをします。

まず、知事、島あじマラソン参加、ありがとうございました。馬場市長とリレーマラソンで参加されたと。知事の白いシャツには、胸に「知事」と真っ赤なゼッケンや「がんばれ、馬場市長」のたすき、そういう颯爽たる格好で走られたと伺いました。お疲れさまでした。

御所浦振興について部長にお尋ねをします。

御所浦地域の振興につきましては、交通、医療、福祉、教育、地域経済の各分野で様々な施策を実施されてきました。

診療所の建設により医療体制の充実が図られ、住民の利便性が向上し、健康維持につながっておりま

す。

また、交通施策として、旅客船の運賃をバス並みに抑える支援や、住民や観光客の利便性を向上させました。さらに、小学校、中学校、高校の移動支援として、部活動や社会体育クラブ参加時における海上タクシーの活用を進めることで、子供たちの就学環境の改善に取り組んでいただきました。

加えて、今定例会では、燃料価格の高騰に係る海上タクシーの運航支援に関する補正予算が先議で可決され、事業者の負担軽減と交通利便性の確保が期待されます。

これまで実施された振興策は一定の成果を上げていますが、島の人口減少には歯止めがかからず、依然として離島地域の課題は多く、さらなる振興策の強化が求められています。

3月にリニューアルオープンした恐竜博物館を中心に、多くの来訪者が訪れるようになりました。博物館の近くには、化石発掘体験ができる広場も整備されておりますが、現状では、体験用の石材を御所浦の碎石場から船で持ち込んでいるのが実態であり、さらなる観光振興のためには、本物の化石現場を活用した発掘体験のバージョンアップが必要であります。

御所浦・大浦地区の東側海岸には採石場跡地があり、本物の化石が多数含まれた岩砕が存在すると確認されております。このエリアを発掘体験の場として整備し、観光資源として活用することは、地域の魅力をさらに引き出す大きな機会となるのではないのでしょうか。

しかし、このエリアへアクセスする手段は船のみであり、陸路の道は整備されておられません。新たな地域振興策として、自転車道の整備を通じたサイクルツーリズムの導入を前提に、風光明媚な御所浦の自然環境を生かしながら、自転車での移動を可能にすることで、観光客が島内を周遊しやすく、滞在時間の延長や地域経済の活性化にもつながり、交流人口や関係人口の拡大につながると考えます。

御所浦の振興については、これまでも進められており、感謝しておりますが、これまでの振興策を振り返り、コロナ禍後の社会変化や人の流れ、新たな観光の在り方などを踏まえた今後の振興の方向性を集約し、御所浦の地域資源を生かした御所浦の振興策に結びつけることが不可欠であります。

そこで、企画振興部長にお尋ねします。

これまでの御所浦の振興に関する取組状況をどのように評価されているのか、また、今後の方向性として、化石発掘体験エリアへの利便性の向上やサイクルツーリズムの導入といった新たな視点を加えた地域振興策についてどのようにお考えか、お聞かせください。

〔企画振興部長富永隼行君登壇〕

○企画振興部長(富永隼行君) 御所浦の振興は、地元住民の方々の要望を踏まえ、様々な取組を進めており、一定の成果を上げていると認識しております。

例えば、交通分野では、離島のハンディキャップを解消するため、海上交通事業者への支援や定期航路の運賃割引等に取り組み、航路の維持や経済負担の軽減を図っています。

地域経済活性化の分野については、今年で10回目の開催となった島あじマラソンが、募集開始後9時間で定員に達するなど好評を博しています。また、島内の絶景スポットである鳥峠のトレッキング情報をターゲット層に効果的に発信したことで、登山者が3年前に比べ約5倍に増えるなど、交流人口の拡

大につながっています。

県が配置した地域おこし協力隊は、空き家の実態調査や地域資源を生かしたイベント実施のほか、島唯一のハンバーガー店、恐竜グルメテラスをオープンさせるなど、様々な事業に率先して取り組んでいます。

また、景観整備と島内の周遊性を高める仕掛けとしてチェーンソーアートの制作を支援し、現在、26体が設置され、これらのアートは来島者を楽しませるだけでなく、地元住民の憩いの場となっています。

議員御提案の化石発掘体験エリアへの利便性の向上やサイクルツーリズムの導入といった新たな視点を加えた地域振興策は、滞在時間の延長や島内の周遊性を高め、交流人口や関係人口の拡大につながるものと認識しております。

現在、採石場跡地での化石発掘体験については、船を活用した化石採集クルージングツアーを実施しており、これまでに約2,900名の参加がありました。来年度は、新たなコンテンツとして島の清掃活動を加えるなど、ツアーの充実を図っていく予定です。

サイクルツーリズムについては、御所浦地域におけるサイクルアイランド計画を進める天草市や天草地域サイクルツーリズム推進協議会と連携し、サイクルラックの導入支援や情報発信等を行っています。

今後も引き続き、天草市や地元の皆様とともに豊かな地域資源を生かした効果的な事業に取り組むとともに、必要となる環境整備に努めてまいります。

〔楠本千秋君登壇〕

○楠本千秋君 企画振興部長に御答弁いただきました。

鳥峠の登山者が5倍に増えたということ、それと、僕の言った化石発掘はクルーズ船で対応されているということですが、ありがとうございます。

御所浦の移動、来島者の島内移動は自転車がいいかなと。できれば電動自転車がいいのかなと考えます。

牧島の公園では、地域づくりの10数名の方がボランティアで、子供の遊び場として、マウンテンバイクのコース造りに取り組まれています。島内移動、観光等の途中にマウンテンバイクのコースや天草市で進められているチェーンソーアートを楽しむことができます。

しかし、県で進められているサイクルツーリズムのコースに御所浦地域は含まれていないのが現状です。ぜひ、天草市や天草地域サイクルツーリズム推進協議会と連携いただき、御支援をいただきますようお願いいたします。

それから、今取り組まれ、子供たちの体験学習に人気のある化石発掘も、これからは必要な道路整備で実際現地で発掘できるような取組も新たな視点として支援していただくことが必要ではないでしょうか。

知事の大好きな天草、御所浦も好きになっていただき、新たな視点、新たな方向性を加えた御支援を

よろしくお願ひいたします。

次の八代・天草シーライン構想についてお尋ねをします。

知事が建設促進協議会の会長を務められている八代・天草シーライン構想についてお尋ねをいたします。

八代・天草シーライン構想については、昨年9月の一般質問で坂田議員が質問されておりますが、今回、知事が国への要望活動を行われたということで、再度取り上げさせていただきました。

この構想は、昭和60年代から、熊本都市圏と県内主要都市を90分で結ぶ、いわゆる90分構想や八代―松島間の自動車専用道路建設構想が出されたことを契機として打ち出されたものと伺っております。

関係者の御尽力により、令和3年6月に、熊本県新広域道路交通計画において構想路線に位置づけられ、同年7月に、国が策定した九州地方新広域道路交通計画においても構想路線に位置づけられております。

八代・天草地域は、南九州西回り自動車道や熊本天草幹線道路の高速ネットワークが整備されており、構想路線である八代・天草シーラインと併せた道路ネットワークが一体として機能することにより、当該地域と都市間の交流が広がり、地域産業や観光のポテンシャルがさらに高まることが期待されます。

本構想の実現は、県南・天草地域の連携を強め、新たな経済圏や観光ルートの創出、交流人口の拡大など、地方創生につながるプロジェクトであります。

また、自然災害の大規模化、頻発化を踏まえ、県南―天草間の既存の道路が不通になった場合の代替ルートとして、国土強靱化の一環をなす本構想の実現は必要不可欠であると思います。

昨年1月1日に発生した能登半島地震においても、天草地域と同じ半島地域で災害が発生した場合の避難ルートや救助、支援物質輸送ルートの確保など、交通アクセスの問題が取り上げられており、改めて天草地域における八代・天草シーラインの必要性を再認識させられたところです。

知事は、本年の2月3日、八代・天草シーライン建設促進協議会会長として、国土交通省に対して、構想の早期実現に向けた要望活動を行われました。1年前、6年の2月7日、蒲島知事も会長として国土交通省に要望され、そのときの感触が大変よかったとお話いただきました。

要望活動の成果として、令和6年3月28日には、県庁において第1回の八代・天草シーラインに関する勉強会が開催され、メンバーは、国、県、八代市、上天草市で構成、八代・天草地域の現況、道路の現状、今後の進め方などを協議されたと伺っております。

今回、木村知事自ら要望活動の先頭に立たれ、御尽力いただきました。昨年からの流れや状況の中、要望活動の感触や今後の取組について、知事にお尋ねをします。

〔知事木村敬君登壇〕

○知事(木村敬君) お答えいたします。

八代・天草シーライン構想は、交通や物流の要衝である八代と観光に大きなポテンシャルを持つ天草をつなぐことで、県南・天草地域全体で新たな経済圏や観光ルートを創出する大きな可能性に満ちたも

のでございます。

また、大規模災害時における命の道としても重要な役割を果たし得るものと考えております。

県としては、この構想の実現に向け、令和3年2月に県知事を会長とした八代・天草シーライン建設促進協議会を設立し、地元と連携の上、毎年、構想推進大会や国への要望活動を実施しております。

昨年12月に八代市で開催した構想推進大会では、地元選出国會議員や国土交通省九州地方整備局長をはじめ、これまでで最も多い約450名が参加し、私も参加して会場に赴きましたが、地元でのこの機運の盛り上がりを私自身肌で感じたところでございます。

さらに、本年1月31日には、国、県、八代市、上天草市による第2回の勉強会を開催いたしました。

構想対象地域を八代・天草地域のみならず、人吉・球磨地域や水俣・芦北地域まで広げ、より広域的な観点で、現状や課題の整理を行いました。

今後は、この勉強会において、地域の目指す全体像、シーラインに求められる機能、その必要性、整備による経済効果の整理、そして既存の海峡横断道路事業などとの比較検討、比較研究など、しっかりと進めてまいります。

また、議員御紹介のとおり、2月3日には、地元選出の金子衆議院議員をはじめ議員連盟、県議会では山口議長、坂田県議、そして吉永県議をはじめとする議員連盟の皆様、そして地元市長に加えて、今回からは、地元民間期成会の皆様にもお越しいただき、合同で、国に対して構想の早期実現を要望してまいりました。

国土交通省の高橋副大臣、吉岡事務次官、山本道路局長には、お忙しい中、丁寧に話を聞いていただきまして、シーラインの必要性や地元の強い期待をしっかりと受け止めていただきました。近年の地元の機運の盛り上がりや熱意が十分伝わったものと考えております。

もちろん、構想実現には、まだ高いハードルはございますが、関係者が一丸となって、地元の機運をさらに高めながら、その熱意を国に伝え続け、早期実現に向けた取組を着実に、そして力強く推進してまいります。

〔楠本千秋君登壇〕

○楠本千秋君 知事に御答弁いただきました。

昨年12月の八代の大会、450名の参加で大変盛り上がったと、八代・天草地域の盛り上がりを実感できたかなと思います。

知事におかれても、八代・天草シーライン構想は、県南・天草地域全体で、新たな経済圏や観光ルートを創出する大きな役割を果たしているものとお話いただきました。

国交省での感触は、お忙しい中、丁寧に話を聞いていただき、シーラインの必要性や地元の強い期待をしっかりと受け止めていただいたと。

本年1月31日には、2回目の勉強会を開催、構想の対象地域を人吉・球磨地域や水俣・芦北まで広げ、より広域的な視点で、現況や課題を行ったとあります。

第1回大会が6年の3月28日に開催されて、そのときは、対象地区は5市2町で協議をされていま

す。そして、今お話にあった今年の2回会議、1月31日には、対象地域を7市9町5村、21市町村に広げて会議を開かれると。多くを巻き込み、あるいはまた、宮崎、鹿児島まで巻き込んだところで、ぜひ八代・天草シーラインを進めていただきたいと思います。

構想の実現には、まだ高いハードルがあると思います。関係者一丸となり、早期実現に向けて取組を着実に力強く進めていただくと、知事がお話をされました。

そこで、3回目が間もなく開催されるようなお話ですけれども、その中に、新たな研究課題で、既存の海峡横断道路の事業の研究というのが上げられております。余分なことかもしれませんが、できたら不知火海、熊本県で独自の調査というのも、何か現実味を少しでも早める効果のある対応かなと思いますが、いかがでしょうか。どうぞよろしくお願いします。

八代・天草シーラインの推進は、県南・天草地域の連携を強め、新たな経済圏や観光ルートの創出、交流人口の拡大など、すばらしい事業効果が期待されます。どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、本渡港港湾計画についてお尋ねをいたします。

本渡港は、町山口川の河口にあった港が、約100年前の大正11年に指定港湾となり、昭和12年より港湾施設の整備充実が進められてきました。

瀬戸海峡の開削工事が昭和36年に完了し、有明海と不知火海を結ぶ航路が確保されたことに伴い、人や物の流れの拠点として発展してきた港です。

しかし、現在は、人口減少や道路交通網の発達、フェリー航路の廃止等、社会情勢の変化に伴い、港が持つ活気が薄れてきて、寂しい状況になっております。

そのような中、令和5年2月に熊本天草幹線道路の本渡道路が開通したことから、本渡港にも変わった状況が現れました。天草下島の玄関口としての重要性が増したのではないかと考えます。

また、本渡港は、中心市街地に隣接しており、天草市のまちづくりを進める上で重要な役割を担っております。今後、本渡道路と併せて、中心市街地と一体となった港づくりが必要だと思います。

天草市では、昨年4月に、市全体のまちづくりの起爆剤として本渡港を交流、交通の拠点と位置づける本渡港周辺環境整備基本計画を策定されています。その内容は、飲食や商業、宿泊など多様な機能を官民連携で整備し、周辺のあましんスタジアムや本渡歴史民俗資料館といった文化・スポーツ施設と中心市街地との回遊性を持たせることが盛り込まれております。

その上で、昨年9月には、市から、本渡港周辺環境整備基本計画の実現に向けての要望書が県に提出されております。要望書の中では、本渡港を海の玄関口にふさわしい観光・交流拠点として整備すること等、市が進めるまちづくり計画の内容に合わせ、本渡港港湾計画に反映するよう求めています。

さらに、令和6年1月の能登半島地震を受け、道路が少なく交通アクセスが限られている半島地域の防災について、新たな課題も浮かび上がったところです。

県においても、能登半島と環境が似ている天草地域で、地域全体が孤立したことを想定した大規模な防災訓練が行われています。この訓練の中では、孤立した住民の避難や支援物資の運搬など確認されていますが、道路の断絶が想定される地域では、海上輸送の重要性が再認識されたところです。この防災

について県が策定した防災計画にも、熊本港、八代港とともに、本渡港にも優先的に耐震強化岸壁の整備を進めるものと記されております。

このように、本渡港を取り巻く環境がこれまでと大きく変わり、本渡港に求められる役割も変化していると私は考えています。

そのような中、県は、本渡港の港湾計画の改定について、本年1月に開催された地方港湾審議会に諮問し、2月末には計画の改定がなされたと聞いております。

そこで、本渡港の港湾計画の改定内容について、土木部長にお尋ねをいたします。

〔土木部長宮島哲哉君登壇〕

○土木部長(宮島哲哉君) 本渡港港湾計画の改定内容についてお答えします。

本渡港は、平成7年に当初の港湾計画を策定し、その後、3度の軽易な変更を行い、今回、初めての抜本的な改定を行いました。

今回の改定は、近年の取扱貨物量の動向や本渡道路の開通により、本港が天草市の陸と海の玄関口となったことを踏まえ、市が策定したまちづくり計画と整合し、港湾の利用目的を物流から人流へと転換を図るものです。

計画の策定に当たっては、まちづくりのテーマである「港から始まるまちの再生」において、本渡港が果たすべき役割や必要な機能について、天草市と丁寧に協議を重ね、まちづくりにも寄与するものとなりました。

具体的には、あましんスタジアムがある大矢崎地区とフェリー乗り場等がある本渡地区を2つの連絡路でつなぎ、回遊性を高めます。その中間にある海側の埠頭用地には、新たに親水エリアとなる緑地を位置づけ、憩いや安らぎ、海辺へ親しむ空間を創造します。

さらに、国土強靱化の取組として、能登半島地震で浮き彫りとなった半島地域における防災機能の強化に向け、大規模災害時、緊急物資の受入れや地域住民の輸送等における安全確保のため、天草地域で初めてとなる耐震強化岸壁を位置づけました。

このような内容を1月に開催した地方港湾審議会に諮問し、2月末に港湾計画の改定の公示を行ったところです。

今後の取組としては、まず、令和7年度に2つの連絡路の調査設計に着手することとしています。

港湾計画では、目標年次をおおむね15年後としています。実施に当たっては、引き続き、天草市のまちづくりと連携しながら、優先度の高いものから段階的に供用できるよう整備を進め、早期完成を図ってまいります。

〔楠本千秋君登壇〕

○楠本千秋君 土木部長に御答弁いただきました。

まず一番最初に、うれしいお話ですけれども、令和7年というと、もう今年ですよ。連絡路の調査設計に取り組むと。ありがとうございます。

今回の策定に当たっては、天草市と協議を重ねられ、実情に即した港湾の利用目的を物流から人流に

転換されたことと伺いました。また、天草市が本渡港を交流、交通の拠点と位置づけ、人の流れをあましんスタジアムや本渡歴史民俗資料館といった文化・スポーツ施設と中心市街地との回遊性を持たせる連絡路の調査設計に取り組むことや、防災機能の強化のため、耐震強化岸壁も位置づけていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

宮島部長には、大変長い間、熊本県の土木行政に御尽力いただきましてありがとうございました。深く感謝申し上げます。

また、この3月で定年退職される県庁職員の皆様、これまで県民の福祉向上のため御尽力いただき、お礼申し上げます。これからは、よき県民として健康で御活躍されることをお願いいたします。

これで準備いたしました私の6項目の一般質問終わりました。

昨年2月の質問で、夜間中学、ゆうあい中学校の開校前の状況をお尋ねしました。質問の最後に、年齢も国籍も違う生徒さんが入学されると聞き、入学された生徒さんが一日も早く触れ合い、一日も早く仲間づくりができるよう、フォークダンスの効果をお話をしました。おかげさまで、時間をつくっていただき、当日は、多くのマスコミの取材もあり、楽しい時間をつくることができました。

今回の目玉は、すし学科の誕生であります。今回も、願いがかなうよう祈りながら質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)